

公益財団法人 小林奨学育英会

事業計画書

平成 29 年 4 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日

1. 重要課題

1) 地域の期待に応える事業の推進

所得格差が広がっている中で、子育て世代の教育資金への負担は依然として厳しい状況にあります。低所得者世帯の学生にも経済的負担を軽くして進学の道を開く事は、教育の格差を絶つことにも繋がる未来への投資であります。

進学を希望する優秀な子供に対し、社会に有用な人材を育成するため「奨学金の給付事業」を行うものです。

安定的に事業を進める体制を整えてはいるが、今後厳しい運営を強いられる事態も予想され、安定かつ高収益運用し事業の一層の拡大を図るものとする。

2) 事業成果の認知拡大

インターネットのホームページの内容充実、各高等学校への通知、新聞広告により、育英事業活動の成果に対する地域の認識を深める。

3) 昨年度から給付奨学生が社会人・大学院としてスタートをいたしております。平成 28 年 3 月卒業者 4 名中 2 名は社会人、2 名は大学院に進学しており、本年度も 4 名が卒業予定です。小林奨学育英会卒業生の「小林育英会親睦会(仮称)」設立し卒業生の結束を図るため「人材交流に関する事業」発足のため、卒業生の所在を把握しておく。(予算計上する場合は定款の事業追加変更が必要)

2. 助成事業

1) 給付事業

奨学生の採用予定人数及び奨学給付金の決定

(1) 平成 29 年度に大学に入学する者 8 名以内

(2) 1 人当り給付金 月額 7 万円とし、就学期間 4 年分、医大生の場合就学期間 6 年分の奨学金給付契約書を締結すると共に、その年度の予算に計上し、奨学給付準備金として別途積立てる。

平成 29 年度計上額

合 計 金 26,880,000 円

(3) 給付の方法 毎月、本人の口座に月額給付金を準備預金より取り崩して振り込むものとする。

(4) 給付の対象者(奨学生)は学業及び人間性について高い評価を得ながら、経済的理由によって就学が困難と思われる者で奥州市及び胆沢郡金ヶ崎町に在住する者とする。

(5) 選考方法

応募者は、すべて指定された課題の小論文を添えて、学校推薦で応募する。選考会議は、評議員及び役員が3分の2以上が出席し、学業、人間性及び経済的事情を総合勘案して判断し、公正を期するものとする。

(6) 支給日

4月分は平成29年4月下旬、なお以後の奨学金の給付日は毎月25日とする。(金融機関休日の場合は、その翌営業日とする。)

2) 貸与事業(無利子)

28年度をもって奨学生への奨学金貸与は終了。

3) 奨学生の募集、及び応募の周知方法について

平成29年度事業

給付規程に基づき、奨学生選考委員会の選考を経て理事長が奨学生認定証書を本人に交付する。

(1) 平成29年度奨学生選考日程

ア、選考書類送付 平成29年4月 上旬

イ、選考委員会開催 平成29年4月18日

奨学生の決定

ウ、評議員、役員総会

奨学生認定証書公布 平成29年5月4日

(2) 新聞広告 胆江日日新聞 4回・岩手日報新聞 3回

(平成30年1月～3月)

(3) インターネット ホームページ掲載 (平成30年1月～3月)

<http://www.kobayashi-scholarship-society.or.jp/>

(4) 奥州市及び金ヶ崎町の高等学校へのパンフレット等の配布。

(5) 募集期間

平成30年2月1日(木)～平成30年3月29日(木)までとする

(6) 平成30年度事業計画書、収支予算書承認理事会、評議員会開催

平成30年2月中旬から3月上旬

その後事業計画(平成30年度分)

奨学生の選考及び決定

平成30年度奨学生選考日程

ア、選考書類送付 平成30年4月 上旬

イ、選考委員会開催 平成30年4月 中旬

奨学生の決定

ウ、評議員、役員総会

奨学生認定証書公布 平成30年5月 上旬